

令和7年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22026	事業名	津・鈴鹿・亀山3市消防指令業務共同運用事業			
	事業手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()					
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		予算科目	会計	01:一般会計
		基本施策	07:消防力・地域安全の充実			款	09:消防費
		施策の方向	01:消防体制の充実強化			項	01:消防費
重点プロジェクト	03:「しなやか田園都市」プロジェクト		目	03:消防施設費			
	事業期間	R 4 年度 ~ R 7 年度	主な根拠法令等	市町村の消防の連携・協力に関する基本指針			

評価分類	B2
------	----

担当部署	
部	消防本部
課	消防総務課 消防総務G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	市の人的・財政的資源に限られる一方で、昨今の救急需要の高まりや複雑・多様化する災害に対しては迅速で効果的な対応が必要であり、さらには大規模災害時には、近隣消防機関との連携など市域を超えた広域的な災害対応が求められている。	市民の生命、身体及び財産	津市・鈴鹿市・亀山市の3市で、消防指令センターを共同運用することで、広域的な災害対応や初動体制の強化、人員の効率的な運用等、消防行政サービスの向上を図るとともに、運営に係る経費の低廉化を図る。	3市での法定協議会を設立し、消防指令センターの共同運用に向け、設計業務及び整備工事を行う。

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	事業計画		○連携・協力実施計画の策定 ○法定協議会の設立		○実施設計(共同整備に係る負担金)		○整備工事(共同整備に係る負担金)		○整備工事(共同整備に係る負担金)	
	活動実績 (計画通り実施できたか)		共同運用への取組みが円滑に進められるよう、国の市町村の消防の連携・協力に関する基本指針に基づき、津・鈴鹿・亀山消防連携・協力実施計画を策定した。また、消防指令センターを共同運用するために必要となる地方自治法に基づく事務執行機関として、津市、鈴鹿市及び亀山市消防通信指令事務協議会を設置した。		消防指令センターの共同運用に向けた実施設計が完了した。また、多岐にわたる専門性の高い事務を3市で調整するため、津市、鈴鹿市及び亀山市消防通信指令事務協議会に3つの分科会を設置し、検討を進めた。		整備工事の開始に伴い、3市と受注者において作業部会を設置し、詳細な検討を行うとともに、昨年度に設置した分科会では、多岐にわたる専門性の高い事務について調整を進めた。		三重中央消防指令センターの整備工事が完了した。また、引き続き分科会において、多岐にわたる専門性の高い事務について調整を行った。	
	計画額	事業費	500千円	276千円	4,600千円	3,969千円	4,200千円	3,693千円	429,800千円	429,777千円
		国・県支出金		0千円						
		地方債		0千円	4,600千円	3,700千円	3,800千円	3,400千円	416,900千円	417,900千円
		その他		0千円						
		一般財源	500千円	276千円	0千円	269千円	400千円	293千円	12,900千円	11,877千円
	決算額	事業費		175千円		3,901千円		3,674千円		429,550千円
		国・県支出金		0千円		0千円		0千円		0千円
		地方債		0千円		3,700千円		3,300千円		417,900千円
		その他		0千円		0千円		0千円		0千円
		一般財源		175千円		201千円		374千円		11,650千円
	①期間内計画額(R4-7)		439,100千円		②期間外計画額(R8-)		0千円		①+②総計画額	
									439,100千円	

(令和7年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	429,777千円
次年度への繰越額	0千円

	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	事業進捗率	整備スケジュールの進捗率	活動	%	計画値	40	60	80	100
					実績値	40	60	80	100
	整備工事費削減率	共同整備による整備工事費/単独整備による整備工事費	成果	%	計画値				32
					実績値				57
					計画値				
					実績値				

⑤ 成果 (C)	判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
	A	広域的な災害対応や初動体制の強化、人員の効率的な運用など、消防行政サービスの向上を図る体制を整えることができた。また、整備費用においても低廉化を図ることができた。
	十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
市民の生命、身体及び財産	津市・鈴鹿市・亀山市の3市で、消防指令センターを共同運用することで、広域的な災害対応や初動体制の強化、人員の効率的な運用等、消防行政サービスの向上を図るとともに、運営に係る経費の低廉化を図る。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項

⑦ 事業の展開 (A)	方向性	
	完了	目的の達成又は周期の到達等により事業を完了する。
	改善・見直し内容	
	令和8年度で対応する(した)もの	令和9年度以降で対応するもの

【履歴】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定		A	A	A
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	完了

1次評価者	消防本部 消防総務課 消防総務GL 宮本 明幸
最終評価者	消防本部 消防総務課長 草川 隆